

## PA System



## PA システムと SR システム

音響システムのマニュアルなどで「PA システム」という用語は良く出てきますが、「SR システム」というのもお聞きになった事があると思います。「PA システム」としてこの他にも使われる用語がたくさんありますので、それぞれの音響設備をイメージしてみます。

PA とは Public Address の頭文字をとったもので「ピーエー」と呼ばれています。

これは公共に伝達するとか、公衆に伝える、聞かせる、という意味になり、古くは「拡声器」と呼ばれていました。音楽を聴くための「オーディオ」とは違い、主にメッセージ、アナウンスを多くの人に伝えるイメージが強いものです。それには学校の運動場や町内放送など、トランペット形スピーカーを使うものが拡声器の原点にあります。またそれ以前に、「拡声器」と言えばメガホンだと思われる方が多いのではないのでしょうか。

一般に「放送設備」と呼ばれるものには各種の施設、建物、交通機関などで「業務連絡」として電話器を使ったページング放送やチャイムを使った定時放送などがあり、主にマイク放送を行うものがイメージされます。喫茶店やレストランなどでは BGM（バックグラウンドミュージック）と呼ばれる音楽を店内に流すだけの「BGM 設備」がありますが、そこに呼び出し、案内などのアナウンスもミックスされると「放送設備」になるのでしょうか。ホテルやショッピングモールなどでも設備は規模的に大きくなりますが、基本的には同じ機能を持っており、「業務用音響設備」とも呼ばれます。

これに反して多くのお客様に、映像とともに迫力あるメッセージや音楽を聞いて頂く「音響設備」として、映画館があります。「BGM 設備」よりもっと大音量で再生することができる「音響設備」です。

同様に、大音量で音楽を演奏するコンサートやショーなどの「音響設備」がありますが、これも「拡声器」であり、「業務用音響設備」です。しかし、これらは BGM やページングの「放送設備」とはイメージが大きく異なります。

PA という語源からはすべて同じ「放送設備」「業務用音響設備」ですが、あまりにも広義なため、音楽的な要素の強いものや劇場的要素の強いものを SR (Sound Reinforcement) (サウンドを補強する) と呼ぶようになってきているようです。このような音響設備には「舞台音響設備」、「プロオーディオ」、「ステージサウンド」とか様々な呼び方があります。また、コンサート毎に音響機材を持ち込むものと区別するため「固定設備」という呼び方もあります。

「PA システム」では、施設の案内放送、学校の放送、町内放送など、放送を聞く人からアナウンスをしている人の顔が見えないことが多く、基本的にマイクロホンとスピーカーは違う場所にあります。

これとは反対に「SR システム」の「舞台音響設備」や「ステージサウンド」システムでは歌っている人、マイクを使っている人の顔が見え、マイクとスピーカーが同じ場所にある音響設備です。

マイクとスピーカーが同じ場所にあるので、「ハウリング」が発生することもあり、音響設備として色々なノウハウが必要です。

マイク放送を中心にした「連絡」、「案内」や「広報」、「警報」に使われるものが「PA」で、音楽要素や劇場的な要素が強く規模的に大きなものが「SR システム」と言えそうです。

マイクを持つ人の顔が見えて音楽が鳴っていれば SR システムだというのは、それでは、運動会や盆踊りなどは SR システムになるのかと聞かれると困るのですが、このような場合はコンサート会場程の規模ではないという理由で PA システムと呼ぶことで如何でしょう。

他にも呼び方に困るシステムは PA システムで良いと思います。どちらも PA システムの仲間なのでから。

近年は自然災害が増え、防災行政無線用放送設備をはじめ、「警報装置」「避難誘導装置」として当社の「PA システム」の重要性が再認識されています。災害時や緊急時は如何に迅速に正確な情報を提供し、安全に誘導できるかが大変重要です。

このような「PA システム」にも「SR システム」のように、放送する相手の状況が見えることが、重要なのもかもしれません。